

＜シンポジウム (4)-13-6＞日本神経学会編纂診療ガイドラインの現況と将来展望

## 日本神経学会編纂診療ガイドラインの評価と将来展望

山本 光利<sup>1)</sup>

**要旨：** 2011年版パーキンソン病診療ガイドラインが刊行された。診療ガイドラインは計画、作製、実践、結果の評価の順に進行していき、評価の結果を踏まえて、改訂にいたる手順をくりかえすことになる。ここで一番大切なのは診療ガイドラインの実践結果の評価である。しかし、この評価は現実には困難である。そこで著者は全国各地（各地方に分散している）の10名のパーキンソン病専門診療の経験深い神経内科医に、彼らのところを初診した、パーキンソン病治療上問題があった症例を提出してもらった。これらの問題症例はいずれも診療ガイドラインを逸脱しており、かつ、治療自体も問題だといえる症例であった。臨床現場ではガイドラインの目指すことから逸脱した不適切な治療が全国各地でおこなわれている実態の一端が明らかになった。ガイドラインは絶対的なものではないが、その指針は合理性を有するものである。にもかかわらず、そのことが十分理解されていないか、自己流の診療をしているのかは不明確である。以上の現実からいえることはガイドラインをもっと神経内科専門医に対して周知させなければならないということであろう。これこそが喫緊の課題であり、いくらガイドラインを改定しても意味がないといえよう。

（臨床神経 2013;53:1352-1353）

Key words：診療ガイドライン、パーキンソン病、コンプライアンス

### はじめに

2011年版パーキンソン病診療ガイドラインが刊行された。このガイドラインの評価のために日本神経学会会員に対してアンケート調査が実施された。この結果は中山らが報告する。診療ガイドラインはFig. 1のように、計画、作製、実践、結果（実践）の評価の順に進行していき、評価の結果を踏まえて、改訂にいたる手順をくりかえすことになる。ここで一番大切なのは診療ガイドラインの実践結果の評価である。しかし、この評価は現実には困難である。そこで著者は全国各地（各地方に分散している）の10名のパーキンソン病専門診療の経験深い神経内科医に、彼らのところを初診した、パーキンソン病治療上問題があった症例を提出してもらった。これらの問題症例はいずれも診療ガイドラインを逸脱しており、かつ、治療自体も問題だといえる症例ばかりであった。

### 治療上の問題症例

これらの症例に共通した問題点はガイドラインの薬剤使用の適正量、対象症例に関して正しい理解と治療ができていないことだといえる。80歳を超える高齢者にドパミンアミンアゴニストを投与したり、ヘーン・ヤール ステージの3度の患者に150 mgという少量のドパを投与したままであり、かつドパミンアゴニストを併用していること、しかも、ドパは毒性があると患者に説明するという誤りもある。80歳を超える幻覚妄想を有する高齢者にアーテン、シンメトレル、ドパミンアゴニストを併用しかつ、抗精神病薬を併用するという治療などがみられた。こうした治療は1種の医療過誤ともいえなくはないと考えられる。

### PD治療の現状はガイドラインの 目指すところからほど遠い

神経内科専門医の治療がこのような状態であることが明らかになったことはガイドラインが目指す治療の平準、全国どこでも同じ水準の治療を受けられるという目標にほど遠いのが我が国の現状だといわざるをえない。

おわりに



Fig. 1 Evidence-based 診療ガイドラインの作成手順.

パーキンソン病治療ガイドラインが2002年に作製されて

<sup>1)</sup> 高松神経内科クリニック [〒760-0027 香川県高松市紺屋町4-10 鹿島紺屋町ビル1階]  
(受付日：2013年6月1日)

10年が経過したが、臨床現場ではガイドラインの目指すことから逸脱した不適切な治療が全国各地でおこなわれている実態の一端が明らかになった。ガイドラインは絶対的なものではないが、その指針ができた背景には合理性を有するものである。にもかかわらず、そのことが十分理解されていないか、自己流の診療をしているのかは不明確である。以上の現実からいえることはガイドラインをもっと神経内科専門医に対して周知させなければならないということであろう。これこそが喫緊の課題であり、幾らガイドラインを改定しても意味がないといえよう。

※本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体はいずれもありません。

## 文 献

- 1) 山本光利. ガイドラインの問題点. Prog Med 2012;32:1211-1214.

## Abstract

### Practical guideline of Parkinson's disease in Japan: evaluation and mission of future

Mitsutoshi Yamamoto, M.D., Ph.D.<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Takamatsu Neurology Clinic

Japanese Society of Neurology (JSN) published Practical guideline for Parkinson's Disease (PD) in 2002 and revised version in 2012. This guideline was prepared according to the method of evidence-based medicine. We surveyed the daily practice of PD to expert neurologists for PD nationwide in Japan. Many specialists for PD reported that patients with PD had poor treatment by neurologists and neurosurgeons that was out of PD practical guideline. Some patients were treated with small dose levodopa despite of Hoehn-Yahr 3 stage. Another disabled patients were treated with dopamine agonists alone despite of over aged of 80. Many neurologists treated PD patients out of guideline. It is important to educate guideline to neurologists and general practioner.

(Clin Neurol 2013;53:1352-1353)

**Key words:** practical guideline, Parkinson's disease, compliance

---